

科学者委員会・男女共同参画分科会（第23期・第6回）議事要旨

- 1 日時 平成27年10月16日（金）10:00-11:45
- 2 場所 日本学術会議 第5-B会議室（5階）
- 3 出席者 井野瀬久美恵委員長、土井美和子副委員長、三成美保幹事、伊藤公雄委員、上林憲雄委員、久留島典子委員、神尾陽子委員、田畑泉委員、萩原一郎委員、藤井良一委員、松尾由賀利委員、江原由美子委員、戸部博委員

【配付資料】

- 資料1 男女共同参画分科会第5回議事要旨（案）
- 資料2 学術フォーラム「日本の戦略としての男女共同参画―「第4次男女共同参画基本計画」策定に向けて（仮題）」
- 資料3 第4次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（案）
- 参考資料 提言「科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策」

4 議題

- 冒頭、田畑委員から自己紹介があった。
- 前回開催の第5回分科会の議事要旨（案）の確認が行われた。
- 委員長から、Gender Summitの開催について紹介があった。
 - アジアでは初のGender Summitが今年8月に韓国で開催された。Gender Summitは男女共同参画の大きな国際的な流れを作っていこうということで2011年より開催されている。
 - 2016年4月、メキシコで開催され、2017年5月か6月頃に日本初のGender Summitが開催予定。
- 第4次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（案）について意見交換を行った。以下、主な意見。
 - 大学等の取組を公表することまでの言及はあるが、評価までは記載されていない。
 - ポジティブアクションになっていない。独立機関創設の提言は反映されていない。
 - 学術全体ではなく、理工系中心の言及がなされている。文系理系にかかわらず、研究者としてのキャリア形成を考えてほしい。

- 多様性を前提とした家族を考えなければならない。家族に関しては触れられていない。
- 日本学術会議における調査等の一層の推進とあるが、調査費の支給も一緒に考えてもらわないと調査はできない。

○ 学術フォーラム「日本の戦略としての男女共同参画ー『第4次男女共同参画基本計画』策定に向けて」(仮題)について

- ・ 12月20日(日)開催予定の学術フォーラムについて意見交換を行い、
 - 「テーマ」は、日本の戦略ではなく、「日本の戦略としての学術・科学技術における男女共同参画」とする。「サブタイトル」は、「『第4次男女共同参画基本計画』との関わりで」とする。
 - また、「挨拶者」、「報告者」、「パネルディスカッション」等については、今後、詳細を調整のうえ決定し、11月中旬にはポスターとして公表することとされた。以下、主な意見。
 - 男女共同参画を推進しないと科学技術は危機的になるということを丁寧、具体的に話し、そのためには何が足りないかを議論しないといけない。
 - 医学のガイドラインは変わってきている。科学的エビデンスが高くても薬を飲まない人がいたらどうにもならない。英国での事例紹介があり、みんなで決めたガイドラインは、みんなで決めたことだから、罰則まで記載できる。こういった取組は、独立した機関が実施することが重要。そういうプロセスを設けないと、決定的にならない。
 - 企業関係者や国立大学、公立大学、私立大学の関係者にも声をかけ、議論に参加してもらうようにしたい。
 - 特に私立大学の経営陣に女性はほとんどおらず、私立大学の女性教員や女子学生を大切にしなければならない。
 - 今回の学術フォーラムは、主に企業の意思決定者等も対象とし、来年、若手を呼ぶ企画を別途策定し、流れを作っていくことにすればよいと考える。

○ その他

- ・ 次回は来年4月に開催予定。

以上